

チャオラクレです!!

(383号の続きです。ウィーンに到着した翌日)

まだ薄暗い中起床。8月だというのに朝はひんやりしていて肌寒い。メルクに向かうため地下鉄に乗ってウィーン西駅へ。ここでワツハウコンビチケットを購入(電車の往復、メルク修道院入場チケット、渓谷のクルージングがセットになっているお得なチケットです)。ザルツブルグ行に乗り途中鈍行列車に乗り換えて1時間20分くらいで到着。駅を出ると正面の高台に優美な姿で建っています。修道院に行く途中ハウプト通り(メインストリ



メルク修道院の入り口



修道院の内庭

ート)を歩きます。15〜16世紀の面影を残すルネッサンス様式の家並みで、アイスグレーの石畳とパステル系の建物がメルヘンチックで可愛らしい。道の両脇には商店や土産物屋、カフェなど地元の人と観光客であふれています。この街並みかなり気に入ったのでカフェに入りたかったのですが、後のスケジュールが詰まっていたので泣く泣く素通り、メイン通りを抜けて細い路地へ、坂道を登ってやっと入り口に到着。

メルク修道院

パステル調の立派な門

をくぐると(二つ門をくぐります)。修道院の中庭です。中央に噴水があり、それを取り囲むように建物建っているのですが、ご立派過ぎて中庭というよりもちょっとした広場みたいですね。それもそのはずガイドブックに目を落とすと、オーストリアを代表するバロック建築で11世紀に創設されたベネディクト派、宗教改革で崩壊し18世紀に今の姿に再建されたそうです。中庭の左側の入り口に入っていくと、左側に大理石のエントランスホールが見えます。階段を上り2階の宝物展示室へ、豪華を極めたハプスブルク家ゆかりのお宝が各部屋ごとグリーン、ブルー、赤の部屋と色分けされています。―豪華な装飾品がこれでもかという程たく



大理石のエントランスホール

さん見られます。次の部屋は、天井のフレスコ画ポール・トロイガーの作品。フレスコ画はヨーロッパでは色んな所で見ましたが、私が今まで見た中で一番パステル色の強い優しい色彩のフレスコ画でした。
図書館と教会
ここで一度外の通路に出て図書館に入ります。この**図書館が凄いです!!** ずらっと壁一面に並んだ古書が天井からギッシリ並んでいて(10万冊あるそうです)。映画「ハリポッター」に出てくる一場面の様な一気に見える一冊スリッパさせられました。威厳ある図書館です。ここは修道院全体の中で唯一写真撮影が禁止の場所でした。
図書室を出てらせん階段を下り1階へ。雰囲気



イエス・キリスト

のある回廊を進み、次は教会を見学。
これまたビックリ!! 内部はこじんまりしているのですが、礼拝堂をはじめ豪華で壮大です。あまりの見事さに絶句、図書館と言いつつ程しぶりに鳥肌が立つ程。メルク修道院は世界的にも有名で世界遺産にも登録されています。古くはマリアアントワネットがフランスのルイ16世のもとに嫁ぐ途中で1泊したことでも知られ、ベストセラー小説「薔薇の名前」作者のウンベルト・エーコがこの修道院と著名な図書館への賛辞を込めて主人公の一人に「アドリ・フォン・メルク」と名付けたそうです。現在、男女900名の生徒がここで学んでいてこんな素晴らしい環境で羨ましい限りです。

メルク修道院はいい意味で期待を裏切ってくれました。外観はパステルなイエローベージュでメルヘンチックなのに、内部は絢爛豪華で広くとっても見ごたえがあります。フランス、イタリア、スペインなどの修道院のイメージとは全く違って、修道院というよりも宮殿に近い感じです。
感動に浸りながら修道院の外の中庭を抜け、階段を上ると絶景パノラマが広がってきました。
左下にはメルクの街並みとドナウ川、横に目を向けるとオーストリアの雄大な自然が広がり、目の前にはメルク修道院、なんて言い表していいのか言葉が見つかりません。ウィーンに行くことがあったら是非訪れてご自分の目で味わってみてください。見る価値は十分にあります。

余韻に浸りながら、これからもう一つの楽しみドナウ川クルージングヴァッハウ渓谷を見るために船着き場へ向かいます。(3面につづく)



教会内の一部

あまりにも見ごたえがあったため、メルク修道院で時間を使いすぎて13時50分の船に乗るのにギリギリ、これからドナウ川をクルーズに向かっています。クルージングに出ます。
ヴァッハウ渓谷
ドイツから黒海に抜けるドナウ川の中でも風光明媚な場所として知られています。オーストリア北部のドナウ川下流地域に広がる景観地で、南北の山脈に抱かれた30km(メルク⇄クレムス)に及ぶ渓谷一帯が世界遺産に登録されています。
メルクを出発してしばらくすると、ドナウ川の本流に出ます。船内は豪華な内装で老舗カフェの様な高級感が漂っています。お腹がすぎすぎて限

界なので、軽く食べてから上のオープンデッキの席へ移動、人気クルーズだけあって国際色豊かです。
アナウンスが流れてきました。最初の見どころシェーンビューエル城です。日本語の解説も流れますが、ドイツ語、英語、日本語の順なので通り過ぎてしまう場面も多々あります。数分おきに見どころが現れます。アッグシュタイン城の廃墟、ヴィレンドルの村(ヴィレンドルフのヴィーナスが発掘されたところ)↓パイスンキルヒエン教会↓聖堂参事会員修道院、ほかにも見所が満載です。川沿いに点在する小さな村や街、周辺に広がるブドウ畑など眺めながら、



乗船していた船



船のデッキ席



船から写したお城



船の中から写した町並み

心地よい風と共にゆっくり進んでゆきます。
日本でいう渓谷のイメージとは違い、川幅も広々としていて流れも緩やかです。途中いくつものクルージング船とすれ違い、その度に皆さん手を振りあっていました。
青い修道院の建物が見えてきました。クレムスの手前の停車場デュルンシュタインです。1時間30分くらいのクルージング、時間もこのくらいがちょうど良いかな。(ウィーンからもクルージング船の運航があるそうです)さすがに世界遺産に登録されているだけあって、素朴でいて歴史を感じさせる景色を堪能できました。

デュルンシュタイン
デュルンシュタインの街はヴァッハウ渓谷の中で多くの町や村が点在していますが、特に美しい街と言われているだけあって、私たちも含めて降りる人が多いです。船着き場に降り立つと町の城壁にトンネルがあり、そこから街に入っていくのですが、入り口から中世の世界に迷い込んだ様な雰囲気、町全体もこじんまりしていて、おとぎ話の世界にいるような雰囲気を味わえます。そして私たちの目当ては、オーストリアと言えば白ワイン、特にこの地方で作られているワインは格別だそうで、ホイリゲに寄って白ワインを頂きま

したヨ。
色々飲んでいたのでたまや時間が無くなり、予定では山の上の城まで(30分くらいで行けるそう)行きたかったのですが、そこは、昔十字軍遠征の帰路、ウィーン付近で捕えられたイギリスの「リヤード獅子心王」が幽閉されていたことで有名な城。歴史を感じさせてくれるスペクタクルな所だったので、あまりにもワインが美味しかったもので、歴史よりも現実に負けてしまいました。もう一度船に乗ってクレムスまで行ってそこからウィーンに戻ります。なんて充実した一日だったでしょう。(この日はまだ終わってません。ウ

ィーンに帰ってからも夜遅くまで続きました。メルクの街並み、メルク修道院、そしてヴァッハウ渓谷のクルージング。ウィーンの近くに全く別世界が広がっているオーストリア恐るべし!!来る前は正直期待していませんでしたが余計感じるのかも知れませんが。ウィーンの街自体も歴史にあふれていて、コンパクトで歩きやすいし、オペラも気軽に楽しめる、中高年の人にはバリやイタリアよりも治安もいいし見どころも満載なのでかなりおすすめです。(但し、クルージングは10月〜3月は運航していません。)

ではまた、チャオチャオ!!